パブリックコメントで寄せられたご意見と市の考え方

案件名	上越市地域防災計画（修正案）	担当課	市民安全課

No.1	ご意見の該当箇所：	ー
ご意見	計画されている内容は、かなり読み込み自分でも理解可能な範囲ですが、よく出来ていると関心しました。現実的には各年予算から審議されて実行に移ると思いますが、この計画のうち物資など物理的に準備する物は、何年計画で現在どのくらいまで進められていますか。 また、先日、高市首相の政府方針で指定避難所の学校におけるエアコン設置に関して前倒しで進めるという発表がありましたが、整備が終わるまでの対策はありますか。	
対応区分	計画（案）以外の意見	
市の考え方	地域防災計画は、施策の単年度ごとの実施計画や達成時期を示すものではなく、当市の防災・減災対策に関する基本方針や実施すべき施策の方向性を定めているものであります。 備蓄物資などの整備については、食料や水は想定避難者数に応じて備蓄しており、賞味期限を迎える年度に同数分を更新しているほか、資機材は防災上の必要性などを踏まえ、優先順位をつけながら整備を進めております。 なお、避難所となる学校体育館などのエアコン整備については、一部の学校で整備に着手したところであり、今後につきましては、国や県の動向を注視しながら、市教育委員会と連携し検討を進めることとしております。 現状、避難スペースにエアコンが整備されていない避難所も多くありますが、高齢者や乳幼児、障がいのある方など要配慮者から優先的にエアコンが使用できる部屋を利用できるよう、柔軟に対応しているほか、大規模災害時には、民間事業者との災害時応援協定や、国による「プッシュ型支援」により、冷房機器が供給される仕組みとなっており、これらの支援を活用しながら、避難所における良好な生活環境の確保に努めてまいります。	

No.2	ご意見の該当箇所：	ー
ご意見	災害対策物資は、市町村単位で準備は必要ですが、全て市が賄うには無理があると思っています。県レベルでも相互補完・協力体制を取るようにはできないでしょうか。持ってくるのが大変というのはありますが、現に熊本の状況を見ても残念に思います。	
対応区分	記載済み	
市の考え方	本計画では、災害時に必要となる物資は、「自らの命は自らが守る」という自助の考え方に基づき、各家庭において最低3日分、推奨1週間分を備えていただくことを原則としており、食料や飲料水などの家庭内備蓄の必要性について、市民の皆様へ周知・啓発を行っております。 市の備蓄品については、発災直後に必要となる物資を一定数量備蓄していますが、これだけでは不足する場合に備え、国の「プッシュ型支援」のほか、災害時応援協定に基づく民間事業者からの支援体制に加え、県が備蓄する物資の供給が受けられる体制を整えております。	

No.3	ご意見の該当箇所：	ー
ご意見	防災の組織についてです。被災した市（仮に上越市）では、激甚災害になるとおそらくこの計画に記載されている機能の1/2が機能すればよいところと思います。企業でも激甚災害に見舞われたところをみてきましたが、従業員自体が被災し、会社に来れない状況となります。また、情報を集めるだけで誠一杯です。 新潟県では県庁防災局に依頼したり、他外部団体への協力依頼になると思いますが、市ではどうですか。訓練も実施して市民公開いただけたらと思います。是非、お声がけくだされればお伺いして「一般市民の講評」をさせていただければと存じます。	
対応区分	記載済み	
市の考え方	大規模な災害時においては、市役所が十分に機能しない事態も想定されます。 このため、上越市地域防災計画においては、市単独での応急対策が困難な場合には、県や他市町村、防災関係機関、災害時応援協定を締結している団体等の協力を得ながら応急対策を実施し、被害の拡大抑止に努めることとしております。 具体的には、災害発生時において、他の地方公共団体からの人的支援や支援物資の受入れを行うほか、ガス、水道、道路などの早期復旧に向けて、関係機関・団体に協力を要請し、迅速な応急対策を実施できる体制を整えています。 また、毎年度、職員に対する訓練や研修を実施しているほか、地域自治区ごとに実施する市総合防災訓練において、住民避難訓練をはじめ、避難所の開設・運営訓練などを実施しており、これらの訓練を通して、住民、自主防災組織、消防、警察、自衛隊をはじめとする関係機関等が連携し、地域全体の災害対応力の強化に取り組んでいるところです。なお、総合防災訓練については、事前に広報上越や市ホームページ、公式SNSでお知らせしており、誰でも見学いただけるほか、市ホームページでも過去の訓練の様子を公開しておりますのであわせてご覧ください。	

No.4	ご意見の該当箇所：	全般
ご意見	非常電源、非常用電源、非常電源装置、非常用電源装置、可搬電源装置、非常用発電機、発動発電機、可搬式発電機、発電機について、それぞれ意味があって明確に使い分けているのでしょうか。 使用する単語の意味と、その目的を整理（明確化）すべきと考えます。	
対応区分	反映しない	
市の考え方	当市の地域防災計画は、上位計画である国・県の計画に基づき作成しており、今後の修正において、これらの計画との整合を図りつつ、必要に応じて整理してまいります。	

No.5	ご意見の該当箇所: ー
ご意見	主要な避難所には、保安用・一般停電用の非常用自家発電装置の設置が望まれます。 国土強靭化等、国の指針では、72時間の連続運転を推奨しています。
対応区分	計画(案)以外の意見
市の考え方	市では、災害時における停電対策として各避難所に小型発電機を備蓄し、投光器や暖房器具等の使用を想定した最低限の避難所機能を確保することとしています。 一方で、非常用自家発電装置の設置及び72時間連続運転を可能とするためには、設備整備に加え、燃料の確保、維持管理、更新費用等の経費も生じてくることから総合的な検討を行う必要があると考えます。 いただいたご意見につきましては、今後の避難所機能の充実や防災対策の検討を進める上での参考とさせていただきます。

No.6	ご意見の該当箇所: ー
ご意見	仮設で可搬型自家発電装置を持ち込む計画においても、電源の接続という課題があります。 避難所となる施設の体育館やトイレなど、電気設備容量などを十分に調査した上で、手動電源切替装置や接続ケーブル等を事前に工事・準備しておき、安全かつ容易に接続・電源切替操作が可能な環境の構築が重要と考えます。
対応区分	計画(案)以外の意見
市の考え方	避難所における停電対策については、災害時の避難所機能の維持や避難所生活の確保の観点から重要な課題であると認識しています。 いただいたご意見につきましては、今後の避難所機能の充実や防災対策の検討を進める上での参考とさせていただきます。